



巻頭言：「医学図書館のリニューアルオープン」	成瀬一郎	1
私の選んだこの一冊		
「いかにして問題をとくか」柿内賢信訳，G. ポリア著	後藤和雄	5
所蔵資料の紹介		
鳥取大学附属図書館所蔵の「鳥取新報」	岸本 覚	7
図書館紹介：境港市民図書館	藤原順宣	9
ミニ・シリーズ情報検索コーナー		
国内の博士論文の探し方		10
トピックス		13



巻頭言

「医学図書館のリニューアルオープン」

成瀬 一郎

長年の懸案でありました鳥取大学附属図書館医学部分館（以下、医学図書館）の改築・改修が、平成23年度第3次補正予算による耐震工事に伴う改修という形で実現し、本年、平成25年4月からリニューアルオープンすることができました。本当に嬉しく思っております。このようなリニューアルが可能になったのは、能勢元学長をはじめとする多数の関係者のご支援ご尽力の賜物であり、ここに厚く御礼申し上げます。平成24年度の改修工事にあたり、一時休館しましたし、アレスコ棟裏にある小さな自習室を使った仮設図書館では、サービスの提供でも哀しいほど厳しい制約がありました。利用者の方々、特に国家試験の勉強をしたかった医学科6年生や保健学科4年生には大変なご迷惑をおかけしました。国家試験に影響を及ぼしたのではないかと忸怩たるものがあります。

医学図書館は昭和46年に新築されたものですが、すでに40年以上の歳月が過ぎ、老朽化が目立っております。今回の改修を期に、重複している書物や電子的に読めるジャーナルの冊子体を廃棄し、現在16万冊まで減らし、この重たい蔵書を1階の集密書架に入れることによって、利用可能な面積を増やしました。

リニューアルした医学図書館は、外観および内装を一新し、必要な設備の導入を図ることで、より充実し心地の良い図書館サービスを提供できる条件が整ったものと考えています。利用者を迎える側としては、今後、できる限り多くの皆様にご利用いただきたいと願うばかりです。リニューアルを機に、医学図書館を、大いに活用して頂くことによって、

これまで以上に役に立ち頼りになる図書館に発展させるにはどうすれば良いか？この改修の設計から建築まで立ち会わせて頂いた者として、考えている事を以下に述べさせていただきます。



平成23年度までの医学図書館は、はなはだしく老朽化が進んでおり、オープンキャンパスなどでも高校生には恥ずかしくて見せられない施設でした。リニューアルすることができましたので、どうどうと見せられる施設となりました。改修にあたって、耐震性の向上以外に、以下の4点を基調としました。

- 1) 鳥取大学医学部・附属病院における学術情報の中心となる医学図書館
- 2) 閲覧や学習の場として、その快適性の向上
- 3) IT社会の急激な変化に伴う学習・教育・研究における多様な形態に対応できる施設
- 4) 地域にも開かれた図書館

1) に関しては、学生や教員をはじめとする多くの利用者が、図書館資料を活用して、学習・教育・研究活動を促進されることによって、医学図書館が学内外における学術情報の中心になれると考えております。改修工事が終わった今、医学図書館職員は、皆様の学習・教育・研究活動をフルサポートさせて

頂きます。2)の快適性の向上という点について言えば、館内全体を明るく暖かみのある色調で統一し、学生・院生が長時間、静かに腰を落ち着けて学習できる場を提供することができたと思っています。閲覧机を大幅に増やすことができ、エレベーター、ユニバーサルトイレ、グループ学習室2室を設けました。さらに、会話が許され軽飲食も許されるブラウジングコーナーを設けました。このブラウジングコーナーとアレスコ棟のベンダーコーナーを直結しました。3)に関しては、電子媒体が紙媒体を凌駕している現代においては、IT関連の機器の充実が必須です。全館の学内無線LAN設置、多くの閲覧机にはノートパソコン・タブレットPC用電源コンセントを付けました。各自のノートパソコンからプリンターへの接続も可能です。また、コンピュータ室を大幅に充実し、携帯電話ボックスも設置しました。4)に関しては、地域の人達にも開放された医学図書館であることを、従来以上にアピールし、鳥取県あるいは島根県東部も含めた各図書館との連携を深めていきたいと考えています。

医学図書館に対する利用者満足度を問うアンケートを毎年のように実施しております。集計を見る限りでは、職員の対応については満足度が高いのに比べて、小説等の一般図書および電子ジャーナルの充実を望む声が目に付きます。限られた予算の中でも、その対応が必要となります。一般書に関しては、地域の各図書館相互のネットワークや各図書館との連携を活用することである程度は解決することはできるとしても、やはり、書籍そのものを手に取り、自分の目で確かめ、読める状態が望まれていると考えます。例えば、net検索でヒットした書籍をそのまま注文しますと、思わぬ本が届いてがっかりされた経験を

お持ちの方も大勢みえることでしょう。医学図書館としては、利用者各人の要求に耳を傾ける必要があるとともに、鳥取大学が目指し、進む方向についても、対応する必要があります。つまり、教育・研究の理念として「知と実践の融合」を掲げ、教育方針として「人間力の養成」を掲げている鳥取大学においては、図書館サービスにおいても、その理念や方針に従ってサービスを充実させていく必要もあります。

21世紀の高度情報社会において、おびただしい情報が溢れる中で、これを無批判に受け入れるのではなく、真偽のほどをよく吟味し、確実な内容をセレクトすることが必要です。そのためには、日頃から多角的に関連資料を選択・収集し、その資料を熟読し、真偽を見極める力が必要であり、ここにおいて図書館が大いに役立つと思われます。今日の図書館は、上手く利用することによっては、想像を絶するほど多機能を満載している施設と言えるでしょう。

医学図書館としては、利用者から見て、さらに使い勝手が良くなるように、司書と図書館資料の存在とその活用法について、もっともっと知ってもらおう努力をしてみたいです。

今回の改修を契機として、医学図書館に、より一層に親しんで頂き、活用して頂くために、居心地の良い、信頼される図書館を目指して邁進したいと考えております。

(なるせ いちろう : 医学図書館長)



医学図書館 館内紹介

平成 25 年 4 月 1 日にリニューアルオープンしました。耐震補強とユニバーサルデザインの導入により安全安心な施設となりました。また、閲覧席や蔵書収容能力も増加し、米子地区の図書館利用環境が大きく整備されました。是非ともご来館下さい。



1階 カウンター



1階
ブラウジングコーナー



1階 集密書庫



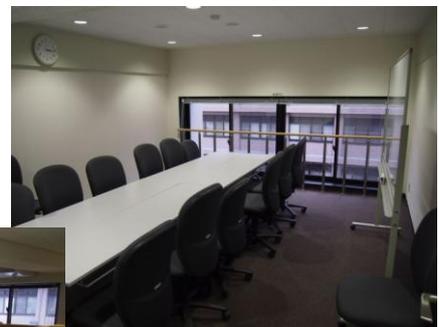
医学図書館
正面玄関



2階 閲覧室(南側)



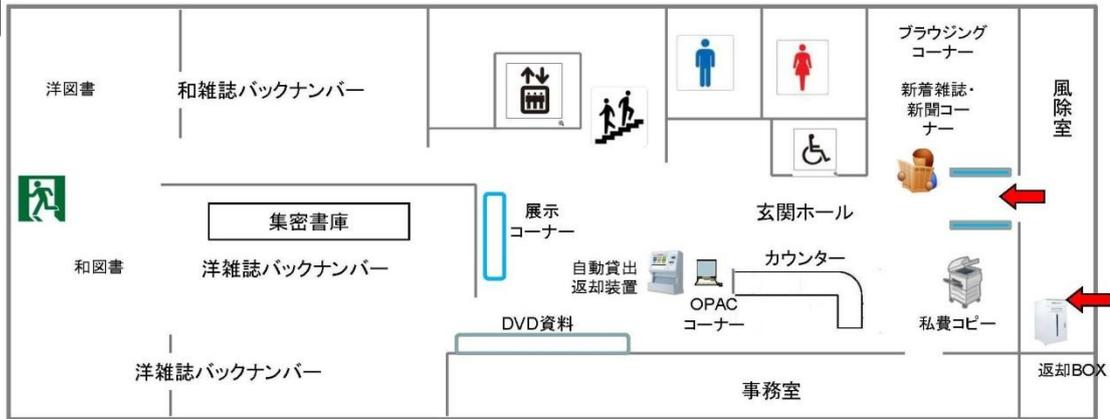
2階 パソコンルーム・AVルーム



3階 グループ学習室 1

MAP

1階

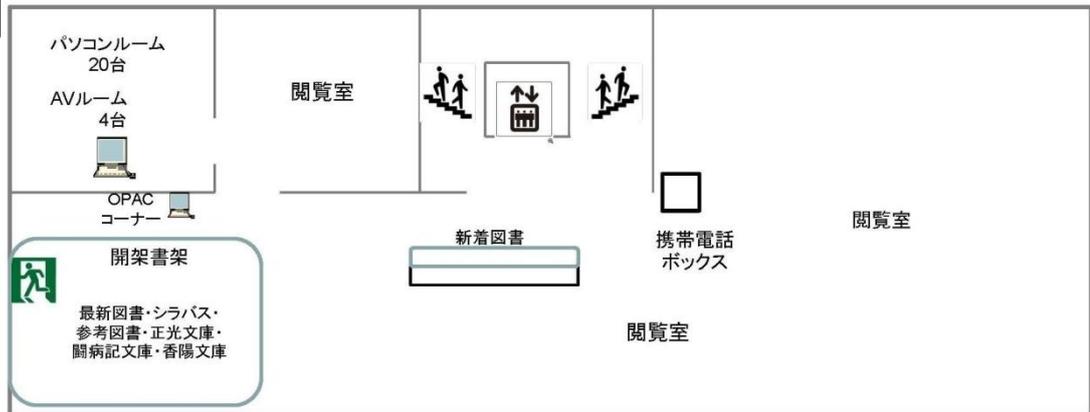


- 新着雑誌・新聞コーナー
- 私費コピー
- 展示コーナー
- 無線LAN

※ 和洋雑誌バックナンバーと和洋図書が集密書庫に配架

※ ブラウジングコーナーのみ軽食と飲み物OK (ただし、ラーメンなどの汁もの、臭いのある食べ物は禁止) その他の場所での飲食は禁止です。

2階



- 閲覧席
- パソコンルーム
- 無線LAN
- 携帯電話ボックス

※ 4人掛机、8人掛机に電源コンセント設置

※ 2階には最新の図書が配架

3階



- グループ学習室1 (12人用)、グループ学習室2 (6人用)

- TV会議室 (教職員のみ)
- 無線LAN

(私の選んだこの一冊)

「いかにして問題をとくか」柿内賢信訳，G. ポリア著，丸善

後藤 和雄

初版は昭和 29 年に発行され、平成 21 年に第 11 版第 33 刷が発行されています。原著は 1944 年に発行され、世界中で現在も読まれている名著です。日本語訳は、昔の言い回しで書かれており、読みにくい箇所や意味が取りにくい箇所があります。その場合は、1944 年 8 月にスタンフォード(Stanford) 大学で著された原書「How to solve it: A New Aspect of Mathematical Method (Princeton Science library), G. PÓLYA, with a new foreword by John H. Conway, paperback」(購入可, 1, 680 円)を参照すると解決します。ポリア(George Pólya ポーヤが正しい発音, 1887-1985, ハンガリー)には多くの数学研究があります。たとえば、高校で習った「相加平均・相乗平均の関係の一般化の証明」に、指数・対数関数を用いた、問題の本質を見抜いたエレガントな証明があります。

さまざまな局面で役立つ論理的思考法として、社会では、数学的思考法・論理性・ロジカルシンキング(logical thinking)が、重要とされています。それらを扱った本が数多く出版されています。論理的なことは基礎基本であり、「問題をどのように考え、どのように取り組むかという」ことが重要です。これらを合わせもつ「いかにして問題をとくか」を超える書籍は見当たりません。昨年、「クローズアップ現代」(NHK)でこの本が取り上げられました。さまざまな分野の問題を解決するための方法論や思考法として使える座右の書です。「では、いつ読むか?.... 今すぐでしょう」。

内容の一部を紹介します。「具体的な問題をいくつか取り上げて、問題をどのようにして、考えて解けばよいのか。その思考法やさまざまなアイデア」を纏めています。単なる How to 本ではありません。

はしがき(原書)から引用すると、

どんな問題も解くことにより、小さな発見の芽生えがある。... 好奇心をそそり、眠っている発見の才能を目覚めさせる問題であり、自分の力だけで解けたなら、緊張を経験し発見の喜びを享受します。感受性の豊かな若いときに、そのような経験をすると、精神的な仕事に興味をもち、生涯にわたり心に深い印象を残すでしょう。... この解法はうまく間違いないようだが、どうしたらその解法を思いつくのか。どうしたらその解法が発見できるのか。この実験はうまくて事実を示しているようだが、どうしたら解法が発見できるのか。どうしたら自分で解法を思いついたり発見できるのか。....

などといった含蓄のある言葉や語句が、たくさんあります。「**新しい発見や興味がある、だれにでも(この本の考え方は)役に立つ**」ともあります。

原文では student ですので、対象は「生徒・学童」ではなく、「学生・研究者または問題解決する人」とした本と考えてほしい。教師の教え方(how to)を著しているのではなく、「問題を解こうとする人が(教師役と学生役にな

り) 自問自答しながら, どのように問題に対処するか。そのようなことを自分で考えられる人になるには, どのように思考するのか」という本と読み読むとよいでしょう。

日本語訳の表紙裏と裏表紙裏には, 役に立つ「解き方のリスト」(以下の4つ)があります。(括弧内は細かなリスト数)

1. 問題を理解しなければならない。(4)
2. データと未知のものとの関連を見つけなければならない。問題がすぐにわからなければ補助問題を考えなければならない。そうして解答の計画を立てなければならない。(7)
3. 計画を実行せよ。(1)
4. えられた答えを検討せよ。(3)

リストを暗記して, 単に問題に当てはめてもうまく行きません。実際に, 自分で問題を解くという精神的に疲れる作業をして始めて, リストの意味が修得できます。

問題解決の一般的注意は, 「問題をよく見よ。未知なものは何か。未知なものに注意せよ。分からないものは何であるか。与えられているものは何か。条件は何か。同じ問題, よく似ている問題, または見慣れた問題はないか探せ。目的(目標)は何か。何が分かれば目的がわかるのか。目的から考える。」などです。

「**なぜ証明が必要か**」の項では, (幾何学の体系において)「あらゆる命題はそれに先立つ公理や定義, 命題などと証明によって結びついている。それらの証明を理解せずにはこの体系の本質を理解することができない。」とあり, 「論理的なものの考え方に特に重点がおかれなくても, 記憶術としても証明は役に立つ... / もしも証明なしに結果だけを教えるならば, そのような理由のないやり方は理解されないであろう。理由なしに法則を提出するならば, 関連のない法則は, はじめ

から忘れられてしまう。... 不完全な証明は事実の間のある程度の関連を目的にし, 厳格な論理性を目的としない場合には, 記憶術的な意味で有効である。但し完全な証明の代わりとすべきではない。」ともあり, **厳格な証明の重要性**が説かれています。数学の講義で「厳格な証明とはどういうことか」を学び, 将来直面する諸問題の解決に役立ててください。

本文の例や問題を理解するには, ある程度の中学の幾何学や高校の数学が必要です。証明が詳しくない部分があり, 解答がない場合もあります。アイデアは述べられていますので, 自分で厳密な証明を完成させると, 理解が深まります。厳密な証明には数学の経験が必要なところもあります。

ぜひ, 一度は精読しておいて損はない名著です。英語で読めばPólyaの伝えたいニュアンスが分かり, 最高です。生涯, 役立ちます。

最後に, 次の言葉をお贈りします。「学びに心を寄せて / 心はずむ時が流れていきます / 学びの海の遙かかなたから / 多彩な学びの奏でる音楽が聞こえてきます / 学びの道は極みなく / 真理の海原への扉が開いています / お贈りする学びのガイドがあなたの夢に役立ちますように / お届けするのは 学びの書庫, 付属図書館です /

We (staff including teachers) are for you heart and soul.

There are the voyages for the truth to boldly go where no one has gone before. Engage! ご精読 ありがとうございます。

(ごとう かずお : 大学教育センター 准教授)

鳥取大学附属図書館所蔵の『鳥取新報』

岸本 覚

現在の日本は、新聞の普及率、発行部数で世界有数の新聞大国であることをご存じでしょうか？日本新聞協会のHP調査データでは、2012年で約4777万部、一世帯あたり0.88部にあたりと紹介されています。しかし、そのわりには政治的な関心がこれほど低い国も珍しいかもしれません。周辺の学生に話を聞いても、毎日読んでいると答える人は一握りです。その要因の1つは、新聞が毎日戸別に配達されるというシステムでできているからで(95%)、アメリカやイギリスなどのように読みたい人が店で新聞を買って読む仕組みとは根本的に異なるからでしょう。

ところで、この大学の附属図書館には戦前鳥取県を代表する新聞『鳥取新報』が所蔵されています。鳥取県の新聞は、1872年(明治5)9月29日第1号を出した『鳥取県新報』に始まります。その後自由民権運動が活発になると、相次いで新聞が発刊されました。鳥取県の新聞の流れをごく簡単に言ってしまうと、『鳥取新報』～『鳥取読売新聞』～『鳥取新聞』～『山陰新報』の流れで『鳥取新報』、さらに『鳥取新聞』～『山陰毎日新聞』の流れで発刊された『因伯時報』という2つの新聞が大きな比重を占めました。1939年(昭和14)1月には、『因伯時報』、『鳥取新報』、『山陰日日新聞』3紙合同して『山陰同盟日本海新聞』が発刊、1941年(昭和16)1月からは『日本海新聞』となります。

『鳥取新報』の特色は、自由党系の『因伯時報』に対して次第に憲政会系の機関紙の立

場を明瞭にしていくことでしょう。一方、『因伯時報』は自由党一憲政党一政友会の機関紙となっていき、憲政会系の機関紙『鳥取新報』と対立して鳥取の言論界に影響を与えたのです。

本学に所蔵されている『鳥取新報』は、明治37年(3月、6～12月)・38年(4～6月、11月)・39年(1～2月)・40年(5～6月)・43年(8～10月)・45年(7月)、大正元年(8～9月)とすべてではありません。これだけしかないのかと思われるかもしれませんが、戦前に発行された鳥取県内の新聞は皆さんがイメージされるほど残っていないのです。発刊された『鳥取新報』の大部分は鳥取県立図書館が所蔵していますが、それもすべてではなく鳥大附属図書館所蔵のものは全国でここだけなのです。新聞ならどこにでも残っていると思われるかもしれませんが、意外と残っていないものなのです。あまりに日常的なメディアである新聞は、ほとんど処分されてしまうものなのでしょう。

さて、この明治37年・38年と言えば、ちょうど日露戦争という東アジアの後進国がはじめて欧米の列強ロシアとの戦争した勝利をおさめた時期です。紙面は圧倒的に戦争関係の記事です。毎日トップニュースと1・2面は戦争の局面で占められており、地域ごとの情報も少なからず入っています。そのため、この新聞自体が慰問として戦地に送られたことがわかります。戦場の兵士にとって、地元鳥取の情報が何よりの楽しみとなっているので

す。また、日露戦後の日本社会は、政治・経済だけでなく民衆の生活に関わる部分も大きく変化していく時期です。このように明治後期の情報と生活の姿が凝集している貴重な資料が新聞なのです。

<http://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation05.php>

『鳥取県史近代第4巻』1970年

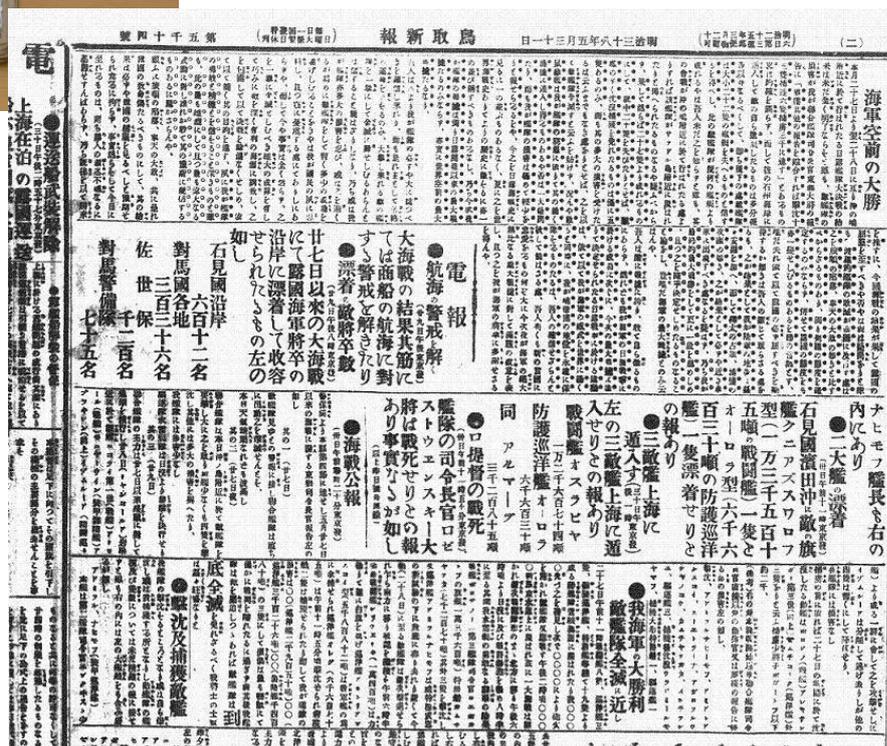
『新修鳥取市史第5巻』2008年

『新修米子市史第3巻通史編近代』2007年

参考文献

日本新聞協会のHP 調査データ

(きしもと さとる : 地域学部地域文化学科 准教授)



日露戦争の日本海海戦における日本海軍の勝利を報じる1905(明治38)年5月31日の『鳥取新報』。石見(島根県西部)沿岸にロシア軍艦や多数の兵士の漂着があったことが報じられています。

「境港市民図書館の現状と課題」

境港市民図書館 館長 藤原順宣

平成18年5月1日に鳥取大学附属図書館医学部分館と境港市民図書館との相互協力の取り決めを定めて以来7年、資料の相互貸借・文献複写・レファレンス、またほぼ隔年に講演その他諸活動には貴館より講師を送っていただくなど、大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。

私どもの図書館は昭和29(1954)年、上道地区公民館図書館を母体とする境港町図書館から始まり、昭和31年に県立米子図書館境港分館、昭和52年に境港市立図書館(通産省補助金で建設。現在の分館)へと移行し(その間2度移転)さらに昭和62(1987)年、防衛庁補助金を基に境港市民図書館本館が建設され、現在に至っています。

当館の諸活動は平均的図書館の活動を何とかこなしている状況です。県内外の図書館との相互貸借、市内10小中学校とのオンライン貸出事業、毎月の市民教養講座の開催、毎月の「市報」原稿作成、「図書館だより」の発行、市役所内「子育て支援課」の「ブックスタート・プラス」事業での毎月の連携事業、毎月の幼児・保護者向け読み聞かせ会開催、年数回の子ども向け・一般市民向け読書活動推進活動等々。小さな市で他に施設がないため、「児童文化センター」的役割や「家族の絆の場」的役割、「高齢者の憩いの場」的役割を求められたりして若干苦慮することもあります。

平成16(2004)年、市内の子どもの読書活動推進に携わっている者や読み聞かせ団体によって「境港市図書館連絡協議会」が発足し、会合を重ねて翌年『境港市子どもの



読書活動推進計画』を作成しました。以後「読書で未来をひらくまち境港一本とひとが出あい・ふれあい・伝えあうまちを目指して」をキャッチフレーズに毎年諸活動を熱心に展開しています。

さて、当館の諸課題を列举します。第1に、毎日の利用者が平均250～300名、夏頃は400名を越える日もあり、基本的に手狭で蔵書管理にも困難をきたしている点です。「狭いなら児童書専門館として、他は書庫に納めよ」「借りる者のない本はどんどん廃棄せよ」「郷土資料は当市のものに限定して、他市町村のものは廃棄せよ」など、上からの真摯な勧告・意見として迫られ当惑しているところです。

第2に、当館職員は館長を含め全員嘱託・非常勤職員で、県内唯一の「常勤不在図書館」です。行政側はお金をかけない最も進んだ合理的あり方として自画自賛しています。館長も司書もほぼ2日に1日出勤(司書は6人のうち3人が交代出勤)で、諸業務をこなします。(土・日・祭日も開館で月曜休館)。業務多忙で他の地域への出張ができず、義務をはたせずに他館に多々迷惑をかけている現実があります。

第3に、非常勤職員の任期が迫り、今後司書資格のない短期間採用者が増加し当館所蔵の貴重資料の管理が危機に陥るのではないかと、いう最大の危惧です。これは全国の公立図書館が財政危機の中、共通して抱えている問題

でもあります。「図書館の民営化」「専門性を認めない司書職廃止」「複数収集・保存原則の地域資料の複本除籍」などなど難問です。

ミニ・シリーズ情報検索コーナー

国内の博士論文の探し方

図書館情報課学術情報担当 津村 光洋

大学院で博士号認定の審査のために提出される論文が博士論文です。博士論文は、学位規則により、学位授与から一年以内の印刷公表が義務付けられています。単行本や学術雑誌論文として公表される場合もありますが、現実には学位授与大学の図書館と国立国会図書館への冊子体の提出を持って「印刷公表」としているケースが多いため、博士論文は利用価値が高いものも多くあるにも関わらず、一般市民にとっては入手の難しい、いわゆる灰色文献として知られています。今回は国内の博士論文の入手方法についてご紹介します。

博士論文を探すツールとしては以下のようなものがあります。

○博士論文書誌データベース

http://dbr.nii.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000016GAKUI1

1957年以降の国内の全ての学位論文の書誌情報を検索できます。国立国会図書館・国立情報学研究所が作成しています。

博士論文書誌データベース掲載以前のものを探す際には、冊子体の目録をご利用下さい。

○日本博士録 1888（明治21）年分～1965（昭和45）年分（中央図書館で1957年分以降、医学図書館では1888年分以降を所蔵（それぞれ一部欠号あり））

○日本博士学位論文索引 1958年分～1976年分（中央図書館・医学図書館（歯学・保健学・薬学篇のみ）で所蔵）

○日本博士学位録 1977（昭和52）年分（中央図書館・医学図書館で所蔵）



見たい論文が決まったら、実際に論文の現物を探します。博士論文が単行本や学術雑誌論文として出版され流通している場合は、それらの資料を入手して利用が可能です。それ以外の場合は先に触れましたように、学位授与大学の図書館と国立国会図書館で冊子体が保存されますので、これらの図書館に利用等について問い合わせる必要があります。他大学の図書館の利用に際して所属大学図書館の紹介状が必要な場合は、カウンターで発行しますのでご相談下さい。

国会図書館で所蔵しているものについては、1984年以降の受け入れ分をNDL-OPAC (<https://ndlopac.ndl.go.jp/>) で検索できます。

近年はウェブで博士論文を公開しようという動きが生まれています。国会図書館は所蔵している学位論文のうち、著者から許諾が得られたものに限って電子的に公開する事業を始めました。また、数はまだ多くありませんが個々の大学のサイトで全文が公開されているものもあります。グーグルなどをタイトルで検索するとヒットする場合がありますので試してみましょう。

○国会図書館デジタル化資料 <http://dl.ndl.go.jp/#etd>

国会図書館が許諾を得て公開した博士論文約14万件を検索し、本文を閲覧できます。

○JAIRO <http://jairo.nii.ac.jp/>

国内の大学がリポジトリ等で公開している博士論文約4万8千件をまとめて検索し、本文を閲覧できます。

鳥取大学の博士論文については、連合農学研究科と工学研究科分は中央図書館の大学関係資料室、医学研究科分は医学図書館の閉架書庫で過去のもの全てを保存しています。現時点では図書館のOPAC（オンライン目録）では博士論文の検索ができませんが、図書館のHPでリストを公開しています。利用を希望される際は職員が取ってきますのでカウンターにお申し出下さい。なお、著者の許諾なしに複写できるのは一冊の半分までです。

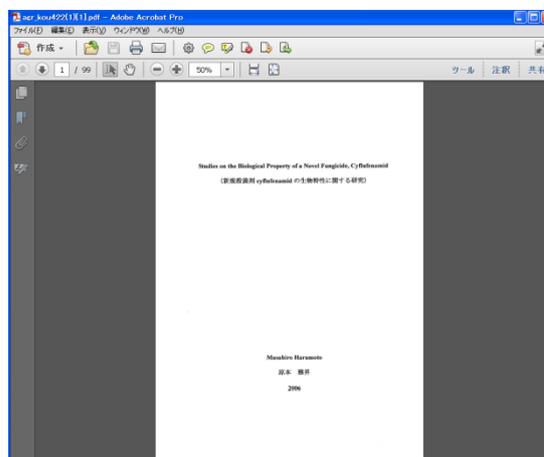


大学関係資料室の学位論文

○鳥取大学の学位論文リスト <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/gakui/gakui.html>

鳥取大学の博士論文についても、許諾を得られたものだけに限り鳥取大学研究成果リポジトリで全文を公開しています。これらについては全文のダウンロードや印刷も可能です。

○鳥取大学研究成果リポジトリ <http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/Repository/>
2013年2月現在、128件の博士論文を公開しています。



鳥取大学研究成果リポジトリ

ところで、平成 25 年度からは学位規則の改正により、従来の「印刷公表」に代えて、インターネットの利用による公表が義務付けられる見通しで、博士論文へのアクセス状況は改善されるものと予想されます。しかし、過去のものについては当面現状のままとなりそうです。探し方についてご不明な点等がありましたら、遠慮なく図書館のカウンターでご相談ください。

ご不明な点、ご要望等ございましたら図書館情報課学術情報担当までお知らせください。

Tel:0857-31-5673 (内線 7060)

E-mail:ac-gakuju@adm.tottori-u.ac.jp



トピックス

第53回中国四国地区大学図書館研究集会を開催

平成24年10月11～12日の2日間、鳥取大学附属図書館（当番館）・鳥取環境大学情報メディアセンター・福山市立大学附属図書館の3館の運営による、第53回中国四国地区大学図書館研究集会を行いました。

中国四国地区国公立の37大学46名が参加し、『大学図書館を巡る環境変化に対応する』をメインテーマに、第1日は「今、この時代に大学図書館広報を考える ―SNSの利用と学生気質―」と題した筑波大学図書館情報メディア系 教授逸村裕氏、および「米国大学図書館におけるリスクマネジメント ―災害に強い図書館について学ぶ―」と題した東北大学附属図書館情報管理課専門員村上康子氏の講演がそれぞれ行われた。また、研究発表・実情報告、ブラウジングコーナーでは、日頃の研究成果、図書館に対する思いなどが報告されました。

第2日は二つの分科会に分かれ「図書館広報 ―図書館を効果的にアピールするために―」、「リスクマネジメント ―図書館の危機管理を考える―」をテーマにそれぞれ活発な意見交換が行われました。



矢部鳥取大学附属図書館長の挨拶



第1分科会の様子

鳥取大学附属図書館と鳥取県立図書館の職員相互派遣研修

鳥取大学附属図書館及び鳥取県立図書館の図書館利用の相互協力に関する協定により、互いの連携を推進するため、平成8年より双方職員の派遣研修を行っています。本年度は平成24年11月27日～29日の間 鳥取大学医学図書館から1名鳥取県立図書館へ、平成25年2月6日～8日の間鳥取県立図書館から鳥取大学附属図書館へ1名、それぞれの図書館で研修を行いました。

公共図書館、大学図書館を相互に体験しながら今後の業務の参考とするとともに親睦を深める機会となりました。

平成 24 年度地域貢献事業

鳥取県内の大学図書館、公共図書館には、図書を中心としてそれぞれの地域性、歴史に沿って様々な資料が多く所蔵されているが、通常は書庫等に保管されて利用者の目にめったに触れない貴重な資料もある。また、その地域、その大学ならではのユニークな資料もあることから、それらのお宝資料を一堂に集めた資料展を企画した。

この事業は今年で3回目となり、今回は「若い人に語り継ぎたい鳥取県のお宝」をコンセプトに、会場を鳥取大学広報センターと倉吉市立図書館の2か所とした。

今回は今までで最多の14館の図書館のご協力を頂き、各図書館自慢の様々なジャンルのお宝資料を展示し、初公開資料も多数あった。鳥取会場は大学の敷地内で学生たちにこのような機会を提供でき、倉吉会場では現物資料は少なかったものの、図書館入口での展示は入館者の方の多くの目にふれることができた。併せて、この事業の記念講演会も2会場それぞれ違う講師を招き開催した。

展示会

開催日		会場	参加人数
12月1日～ 12月18日	鳥取県内図書館のお宝発掘事業—我が図書館自慢の資料展3—	鳥取大学広報センター	560名
12月15日～ 12月24日	鳥取県内図書館のお宝発掘事業—我が図書館自慢の資料展3—	倉吉市立図書館	8700名



開催ポスター



展示品の一部

講演会

開催日	演題	講師	会場	参加人数
12月1日	講演会「鳥取県の「至宝」水木しげるの原点は戦争だったー」を開催	足立倫行（ノンフィクション作家）	鳥取大学広報センター	25名
12月18日	講演会「千歯こきと倉吉淀屋ー全国に行き渡った鳥取の鉄」を開催	松本 薫（米子在住作家）	倉吉市立図書館	40名



足立倫行氏の講演



松本 薫氏の講演

国立女性教育会館講師による講演会を開催

平成24年12月20日に本学男女共同参画推進室と共催で、独立行政法人国立女性教育会館・情報課長の市村櫻子氏をお招きして講演会を開催しました。演題は「独立行政法人国立女性教育会館・女性教育情報センターの事業について」です。

同会館の事業活動の現状や女性教育情報センターが取り組んでいる男女共同参画及び女性・家庭・家族に関係する分野の学習・調査・研究を支援する諸活動をご紹介いただき、その成果と大学等の図書館との連携協力について講演していただきました。

女性教育情報センターでは、新聞記事（全国紙・地方紙約50紙）から関連記事を切り抜いて整理し、過去30年分以上の記事を蓄積・データベース化し、申し込みに応じて提供していること、全国の地方公共団体が発行する報告書などを所蔵していること等、様々な取組について説明していただきました。

なお、女性教育情報センターの図書パッケージ貸出サービスを平成25年4月から実施します。

独立行政法人国立女性会館のホームページアドレス <http://www.nwec.jp/>

鳥取大学附属図書館報 第121号 (2013年4月)

〔編集・発行〕 国立大学法人 鳥取大学附属図書館中央図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 【TEL】(0857)31-6728 【FAX】(0857)28-6346

〔E-Mail〕tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp/ 【ホームページ】<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 国立大学法人 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】



鳥取大学
Tottori University